



viva
IMAKITA!



←題字は、6年2組 渡辺瑛智さんの夏休みの研究「身近なデザイン」から生まれた作品です。

全員参加

校長 渡邊 正博

10月23日(木)の運動会に向けて、子どもたちは「笑顔あふれ、最高の思い出となるような運動会にしよう」のスローガンのもと、日々練習に励んでいます。ご家庭でも話題になると思いますので、ぜひ「認め・励まし・勇気づけ」の声かけをお願いします。当日は地域の皆様にもご来校いただき、温かい眼差しと声援を送っていただけると嬉しいです。かつては「子ども1000人+大人2000人=3000人の大運動会」と言われたこともありましたが、大規模校ならではの光景をみんなで創りましょう。将来、ふとした時に思い出す、笑顔の“もと”の1つになると思います。

次は大人(PTA活動)の紹介。現在、令和8年度PTA本部役員の立候補期間中。今年度から「できる人ができる範囲で」の方針のもと、役員は立候補制、学級委員・選考委員会は廃止、環境整備作業はボランティア制、夏休みの家庭実践はデジタル提出へと変化しています。子どもたちの主体性と同様に、大人の主体性も尊重される活動へと進化しています。

表題では「全員参加」と書きました。「なんだ、強制かよ〜。」「同調圧力だ、反対!」とか、マイナスイメージで読まれた方はいましたか?失礼いたしました。それは本意ではございません。私の考える「全員参加」は、もっとポジティブ。その考え方は、H7年蘇南中勤務時代、当時の生徒会執行部員たちとの活動の中から生まれました。私にとっては大きな気づきでした。

例えば、昼休みにバレーボール大会を企画したとき、①選手として参加、②応援団として参加、そして、大会のことは知っているけど③参加しないという選択も「意思表示」として尊重しました。その上で、次は①②を増やすにはどうすればいいかを考え、生徒会活動が活性化していきました。

「全員参加」とは、活動の目的・内容を全員が「知っている」こと。参加方法の多様性を認めること。

今年度は「すぐーる」のアンケート機能を多用しています。再通知も送っています。これは、活動を知っていただき、皆さんの気持ち・参加の意思を確認させていただくためです。

できる人ができる範囲で構いません。「やらなあかん。」ではなく、「やってみようかな。」「今回は無理。」「もっと、こうしたらいいのでは。」といった意思表示を気軽に、当たり前になりとりできる関係を築きたいのです。「学校は敷居が高い」と感じる方もいるかもしれませんが、そんなことはありません。お子様の学び舎です。気になるのが当然です。いつでもご来校ください。(事前に一報いただくとスムーズに対応できます。)

外国籍児童保護者様の参加も期待しています。多文化共生の今渡北小。文化の違いを理解し合うことで、新しい「うれしい!楽しい!大好き!」が生まれる予感がします。皆様の声を届けていただけたら嬉しいです。……子どもも大人も全員参加で“Vivaいまきた!”……